

## 佐賀県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

中距離移動中の電池切れに短時間の充電で対応すべく、国道は5km、主要県道などは20kmスパンで合計129カ所の急速充電器の設置を目指す。目的充電は滞在時間によって、急速または普通充電器392カ所の設置を想定。

# 24時間いつでも、どこでも、誰でも利用できる「EV・PHVが安心して走れる佐賀県」に向けて



ファミリーマートの急速充電器利用料金は1回500円。  
24時間いつでも利用可能だ



1 唐津駅そばにある駐車場に設置された自販機による料金徴収の充電スタンド 2 EVスパとして「ななゆ」に設置された急速充電器。充電は1回15分で500円で、係員が充電に立ち会ってくれる 3 県内各地のイベントに相乗りの形で行われる1万人口ローラー試乗会

Condition	現状	目標	Target
	<b>目標達成の見込み</b> 2013年3月末のEV・PHVの普及台数は703台(EV579台・PHV124台)となり、目標数は達成の見込み。急速充電器は県内7カ所のファミリーマート、4カ所の主要駅など合計11カ所に県が設置済みで、民間によるものと合わせて23カ所となった。	<b>2013年度まで1000台</b> 2013年度までの短期目標として、1000台のEV・PHVの普及促進を目指す。急速充電器は県内7カ所のファミリーマート、主要駅や空港など6カ所程度に設置の予定。対象を特定しないEV・PHV購入、および充電器設置への補助金も創設する。	Target

人 □1万人あたりのEV普及率が4.6台と日本一(2012年9月末／佐賀県調べ)を誇るだけに、佐賀県では「24時間EVユビキタスネットワーク」の構築に積極的に取り組んでいる。まず佐賀県・日本自動車・ファミリーマートという三者協定によって、県内7カ所のファミリーマートに急速充電器を設置し、ユーザーの利便性に応えている。利用料金は1回500円で、利用数の多い店舗の昨年度の月平均充電回数は46回だった。

一方、佐賀県では飲料自動販売機による急速充電器の使用料金の徴収方法を考案した。これは国内だけでなく世界初の試みだ。充電料金の徴収方法がネットとなつて課金やインフラ整備が進まない自治体にとって、維持管理の手間がかからない新たな方法として参考になりそうだ。

また、福岡県との県境に近い脊振山地にある3カ所の日帰り温泉施設に、「EVスパ」と称して急速充電器を設置。主に都市部からのEV客を狙った、ユニークな目的地型インフラ整備の試みとして注目されている。

その他、できるだけ多くの県民にEV・PHVに試乗してもらうために県内全域で「1万

## 充電インフラの整備を強力に推し進めながら、EV普及に向けた試乗会なども積極的に開催

「人口一万人試乗会」を開催。2012年度は83回の開催で延べ2015人が試乗。試乗会は今年度も継続中だ。唐津市で進められているEVの官民力シェアリングは、月々金は市が用車として使い、十日はレンタカーとして貸し出すというもののEV普及促進のアイデアとしてさらなる裾野の拡大に期待したい。

VISION	今後の展望	UserSAYE	利用者の視点
	<b>県独自の補助金も継続</b> 今後は高圧電流の契約済みで、初期投資が少ない大型ショッピングセンターや道の駅などを中心に、ビジネスとして成立する場所への急速充電インフラ整備を推進。同時に県独自の充電器導入補助金やEV・PHV購入補助金も継続して普及を加速させたい。		<b>実践的な充電インフラ整備</b> 当初から充電料金への課金を前提としていたため、世界初となる飲料自動販売機による充電料金の徴収をはじめ、コンビニエンスストアや温泉施設への急速充電器の設置など、県の主導による積極的かつ実践的な施策は大いに評価できる。